



第一礼拝次第

メッセージ: 泉川良道牧師

前奏
頌栄
主の祈り

540

会衆

プレイズ
聖書朗読

「誰も見たことのないことが」
「主を待ち望む者は」
コリント第一 13:4~7
(新約聖書 p317)

会衆
司会

祈禱
特別賛美
賛美

新生 21

司会
会衆

メッセージ

「いのちのための
愛を守るため」

牧師

祈禱
賛美
献金

讚美歌 90

牧師
会衆

報告
頌栄
祝禱

新生 672b

司会
会衆
牧師



第二礼拝次第

メッセージ: 伊禮信義先生

メッセージ: 「神が新しい人に」

聖書: エフェソ 2:14~18(新約聖書 p.354)

プレイス: 「花も」「主は今生きておられる」

賛美: 新生 455 新生 292



ファミリー礼拝

お話し: 渡真利千佳子姉

聖書: ルツ 1:1~7 メッセージ: 「ルツ」

<巻頭言>

「沖縄バプテストの始まり」

牧師 渡真利彦文

沖縄におけるバプテストの働きについてはスコットランドのアラン夫人を忘れてはなりません。アラン夫人はベッテルハイムの琉球伝道のために深い関心を持ち、熱心な祈りと献金をささげておりました。ベッテルハイムはハンガリー生まれのユダヤ系プロテスタント宣教師で、1846年英国海軍琉球伝道会宣教師として家族同伴で来沖、波の上護国寺に住み、約8年伝道に努めました。その間、聖書を琉球語に翻訳し、種痘法などの医療技術を伝えたと言われていいます。しかし、琉球王府の厳しい対応で伝道はなかなか進展せず1854年ペリー来航の際、ベッテルハイムは艦隊と共に琉球を後にしました。その後、ペリーは江戸に入り日米和親条約を結び、日本は開国することになりました。

アラン夫人は、ベッテルハイムが琉球を引き揚げてあとも琉球伝道のために祈り続けたのでした。37年の時を経て、神戸においてアラン夫人とバプテスト宣教師のタムソン師が出合い、アラン夫人の沖縄伝道に寄せる熱心さに宣教師会は心を動かされ、ついに沖縄伝道に着手することを決議し、タムソン師も北米バプテスト宣教団に許可を得て、沖縄伝道の道が開かれるようになりました。

(「沖縄宣教の歩み」 沖縄バプテスト八十年史参照)

1891年(明治24年12月)、相模出身の原三千之助師是那覇港に上陸、間もなくして上の蔵町に「沖縄講義所」が開設されました。これが沖縄におけるバプテスト伝道の始まりです。

神はこれまで、恵みと導きを以て、絶えずバプテストの群れの上にあります。沖縄バプテストの群れは感謝を以て応えていきたい。